

【共通の設問】次の傍線部「けれ」を識別せよ。(答え・解説は解答編)

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1.

鳥こそ鳴きけれ。

Q2.

月こそをかしけれ。

Q3.

そのこと、あるべけれど。

Q4.

人こそ多かりけれ。

Q5.

山は高けれど、道あり。

Q6.

文を書きければ、返りごとあり。

Q7.

見まほしけれど、え見ず。

Q8.

花はうれしけれど。

Q9.

鶯こそ聞こえけれ。

Q10.

言ふまじけれど。

Q11.

人こそ思ひけれ。

Q12.

道は近けれど、暗し。

Q13.

行くべければ、出で立つ。

Q14.

雨こそ降りけれ。

Q15.

心こそ悲しけれ。

Q16.

帰りたしけれど、道遠し。

Q17.

鐘の音聞きけれど。

Q18.

水こそ無けれ。

Q19.

都へ上りければ。

Q20.

罪あるまじけれど。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21.

花散りにければ、春も暮れぬ。

Q22.

風こそ涼しけれ。

Q23.

今こそ言ふべけれ。

Q24.

いとあはれにこそ思はれけれ。

Q25.

夜こそ恋しけれ。

Q26.

麗しかりければ、人皆めでき。

Q27.

行かまほしけれど、暇なし。

Q28.

鳥の音こそ寂しけれ。

Q29.

文を奉りけれど、返りごとなし。

Q30.

罪こそ深かるべけれ。

Q31.

山里こそ住み憂けれ。

Q32.

雪降り積もりければ。

Q33.

言ふも愚かなるべけれど。

Q34.

花こそ匂ひけれ。

Q35.

道のほど遠ければ、日暮れぬ。

Q36.

え避らまじければ。

Q37.

いみじう泣きけれど。

Q38.

世こそ定めなけれ。

Q39.

帰り給ひければ、人々喜ぶ。

Q40.

命惜しかまほしけれど。

Q41.

庭こそ広けれ。

Q42.

雁鳴き渡りければ。

Q43.

立ち去るべけれど、名残惜し。

Q44.

雲こそ怪しけれ。

Q45.

御文賜はりければ。

Q46.

知らせまほしけれど、便りなし。

Q47.

水の音こそ清けれ。

Q48.

もの思ひに沈みけれど。

Q49.

いと心苦しかるべけれど。

Q50.

花こそ咲きけれ。

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

Q51.

花咲けれど、なほ寒し。

Q52.

鐘の音聞けれど、人来ず。

Q53.

鶯鳴き初めければ、春を知る。

Q54.

草木鳴けれど、人語らず。

Q55.

月こそ明かけれ。

Q56.

都に着ければ、人々出で迎ふ。

Q57.

よろづのことこそあはれに思ひ知られけれ。

Q58.

花の香こそなつかしけれ。

Q59.

道を歩けれど、日は暮れぬ。

Q60.

御心ざしの深かりければ。

Q61.

この世にあるまじけれど。

Q62.

庭の梅咲ければ、香に立つ。

Q63.

雲間の月こそうれしけれ。

Q64.

文書き付けけれど、出ださず。

Q65.

風吹けれど、花散らず。

Q66.

その有様こそゆゆしけれ。

Q67.

使ひ参りければ、御覧ず。

Q68.

門開ければ、人入り来。

Q69.

かくこそあるべけれ。

Q70.

心ばへこそやさしけれ。

Q71.

雪降りければ、道見えず。

Q72.

草深けれど、道はあり。

Q73.

鳥羽鳴けれど、声幽かなり。

Q74.

あはれと聞こえけれど。

Q75.

夜のけしきこそもの恐ろしけれ。

Q76.

潮引ければ、洲あらはる。

Q77.

御供に候ひければ。

Q78.

げにこそ見るべけれ。

Q79.

山の井浅けれど、影は映る。

Q80.

月影差し入りければ。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81.

都を出でて、はや三年になりにければ、面変はりせり。

Q82.

軒端の梅咲けれど、主はかへり来ず。

Q83.

人の心のつらきこと、世に類こそなけれ。

Q84.

いとほしと思しめされければ、召して問はせ給ふ。

Q85.

この物語こそ、いみじう面白けれ。

Q86.

風吹ければ、波おのづから立つ。

Q87.

かかる目を見むとは、夢にも思はまほしけれや。

Q88.

別れの悲しさ、言ふ方なくこそ覚えけれ。

Q89.

親の諫め、いと畏かるべけれど、従はず。

Q90.

言の葉の道こそ、なほ捨てがたけれ。

Q91.

御嶽に詣で着ければ、まつ拝み奉る。

Q92.

いみじう悲しと泣きけれど、かひもなし。

Q93.

心のうちこそ恥づかしけれ。

Q94.

山風に紅葉散り敷きければ、錦と見ゆ。

Q95.

幾日も行ければ、都いと遠くなりぬ。

Q96.

御返りこそ、いと心にくけれ。

Q97.

かの人の情け、世に並ぶものなかりけれ。

Q98.

ここに住むべきにもあらず、さりとて帰るべきにもあらまじければ。

Q99.

霜白く置ければ、道もはるけし。

Q100.

過ぎにし方を思へば、夢のごとくこそ覚えけれ。